

CULTURAL CITY NARRATIVE OF A

都市のカルチュラル・ナラティブ

平成 30 年度港区文化プログラム連携事業

地域文化資源インターンシップ —— 地域文化の現場を訪ねる講座

慶應義塾大学アート・センターが展開する「都市のカルチュラル・ナラティブ」プロジェクト。2018年のテーマは「地域文化資源インターンシップ」です。文化が形成、保存、発信される現場では、どのような活動が展開されているのでしょうか。本年の講座では、都市文化の物語（カルチュラル・ナラティブ）を支える人々に出会い、その活動をいわば「インターンシップ」のように経験することで、地域の文化資源について、一歩踏み込んだ知識を得ることを目指します。トピックは、「都市の寺院を訪ねる」「ギャラリーを知る」「学校建築をめぐる」の3種類を準備しています。みなさんのご参加をお待ちしています。

#CulNarra

都市の寺院を訪ねる： 増上寺山内寺院の歴史と文化

都市の寺院を訪ねる

- ① 2018年9月27日(木) 15:00-17:00
「芝増上寺大門通りと旧御成道の歴史探訪」
- ② 2018年9月29日(土) 15:00-17:15
「寺院が伝える都市文化の物語——妙定院の文化財」

都市とともに歴史を重ね、現代に活動する寺院は、都市が蓄積する歴史的・文化的地層を見通す窓であり、過去から現在へと繋がる都市の物語の証言者でもあります。本講座では、現代に受け継がれる建築や美術作品を通じて、寺院の歴史や文化を学ぶことによって、現代都市で展開する寺院の有り様を体験し、都市文化の物語を読み解くヒントを得ることを目指します。

芝増上寺大門通りと旧御成道の歴史探訪

講師：伊坂道子氏（建築家・伊坂デザイン工房共同代表）、常照院 野村恒道住職
増上寺周辺の建築・歴史案内、常照院本堂特別拝観とご住職の講話

寺院が伝える都市文化の物語——妙定院の文化財

講師：伊坂道子氏、妙定院 小林正道住職・小林惇道副住職
建築・美術作品・寺院の活動をめぐるレクチャーと、妙定院本堂・浄土蔵（国の登録有形文化財）の特別拝観

対象：どなたでも 定員・参加費：①20名②50名（抽選）／無料
お申込方法：9月10日（月）までに、ホームページ上の申込みフォームから、または氏名とメールアドレスを明記の上ファックスでお申込みください。



主催：慶應義塾大学アート・センター
共催：港区（平成30年度港区文化プログラム連携事業）



現代文化の発信地、国際都市として知られる港区は、同時に、多くの寺社仏閣や史跡、そして歴史ある企業が所在する歴史文化都市でもあります。このダイナミックな時間軸をもつ都市文化の眺望を、一層明らかにするためのプロジェクトが、「都市のカルチュラル・ナラティブ」です。今昔の文化資源や、文化を巡る学術的な成果を相互に連結し、文化の物語（カルチュラル・ナラティブ）を形づくることによって、現代・将来の芸術文化活動を支え、文化観光の深化を図ります。さらに、日本の文化に寄せられる国際的な関心に対応することを目指しています。

[f](https://www.facebook.com/keio.artcenter) [i](https://www.instagram.com/keio.artcenter) [keio.artcenter](https://www.instagram.com/keio.artcenter) #CulNarra

慶應義塾大学アート・センター（本間・滝瀬）
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
Tel: 03-5427-1621 Fax: 03-5427-1620
cunary@art-c.keio.ac.jp

芝増上寺大門通りと旧御成道の歴史探訪

2018年9月27日(木) 15:00-17:00

講師

伊坂道子氏(建築家・伊坂デザイン工房共同代表)
常照院 野村恒道 住職

見学プログラム

増上寺大門～常照院 本堂～廣度院～増上寺三解脱門

大門通りと御成道にて、江戸期の増上寺の記憶をみつけるガイドツアーです。大門通りには、江戸期の増上寺山内寺院がすべて、現在に継承されています。江戸の香りを残す常照院では、国の登録有形文化財の本堂を特別に拝観します。それぞれに異なる形式をもつ増上寺の大門、三解脱門。江戸の文書にも表れている廣度院の練塀の構造。さらに、御成道の旧跡や増上寺大殿の建築様式について、日本建築や本領域の研究者である伊坂道子氏の解説で学びます。

参考文献 伊坂道子『芝増上寺境内地の歴史的景観—その建築と都市的空間』(岩田書院 2013年)



常照院本堂内陣／格子天井／欄間意匠

全体は、二間半四方の土蔵造りで、黒塗りの格子天井には梵字が描かれ、また、葵の紋や唐獅子の絵柄など徳川将軍家霊廟の意匠を色濃く残している。1923年の関東大震災を耐え、1945年の空襲にあっても本堂内陣だけは焼失を免れ、2001年、国の登録有形文化財となった。

寺院が伝える都市文化の物語—妙定院の文化財

2018年9月29日(土) 15:00-17:15

講師

伊坂道子氏(建築家・伊坂デザイン工房共同代表)
妙定院 小林正道住職・小林惇道副住職

プログラム

レクチャー

小林正道「守ることと展くこと—妙定院の文化財」
伊坂道子「江戸の建築の扉をひらく」

特別拝観

妙定院本堂・浄土蔵(国の登録有形文化財)

妙定院は、1763年、芝増上寺の別院として、妙誉定月大僧正によって、徳川九代将軍家重公の菩提のために創建されました。学問研究の中心的な存在で、後さらに、浄土宗の准檀林の寺格を持った、名刹として知られる一方、妙定院は、貴重な文化財の宝庫でもあります。

文化人でもあった定月大僧正の書画、定月大僧正に皈依した家重公ゆかりの文物、また家重公の重臣や、大奥から寄進された什宝物を数多く所蔵するほか、創建期以来の江戸の記憶を伝える土蔵(国の登録有形文化財)を有しています。

土蔵造りの熊野堂は、熊野三社大権現を本尊とし、1796年に妙定院の鎮守として建立されました。1811年に建立された浄土蔵は、妙定院の収蔵品を守り続けてきました。戦災を免れたこの2棟の土蔵は、近代工法では再現できない技法と意匠を伝承するものと評価されています。

本レクチャーでは、妙定院における建築、美術などの文化財をめぐる取組について解説をいただき、通常は非公開の本堂と、国の登録有形文化財である浄土蔵を特別拝観します。

【予告】妙定院展「画僧月僊と円山応挙」会場・主催：妙定院
2018年11月2日(金)～4日(日) 10:00-16:00



妙定院 本堂／浄土蔵内観／昇斎一景《東京名所四十八景・赤羽根はし》(増上寺五重塔と妙定院をのぞむ)／徳川家康公尊像宮殿／日出弁財天 伝弘法大師作 徳川家本丸より拝領



港区文化プログラム連携事業



地域文化資源インターンシップ —地域文化の現場を訪ねる講座

港区文化プログラム連携事業は、区内で行われる文化芸術事業及びその主催団体を一定期間指定し、団体との連携を図ることにより、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)に向けた港区ならではの文化プログラムを展開する事業です。事業の実施を通して、区内の文化芸術及び国際文化交流の発展、文化芸術を通じた誰もが共生できる地域社会の実現、東京2020大会に向けた気運醸成、さらにはレガシー創出(未来に残すべき伝統、人材、知恵等の継承)を目指しています。

2018年度のプログラム(予定)

各イベントの詳細はウェブサイト等で随時お知らせいたします。

1. 都市の寺院を訪ねる

ガイドツアー&レクチャー「増上寺山内寺院の歴史と文化」

9月27日(木)
増上寺大門通りと旧御成道の歴史探訪

9月29日(土)
寺院が伝える都市文化の物語—妙定院の文化財

レクチャー&座禅WS「龍源寺からのまなざし：寺院文化の現在」

10月13日(土) 龍源寺
ガイドツアー&レクチャー「学問・文化の拠点としての寺院」

11月11日(日) 泉岳寺

2. ギャラリーを知る

慶應義塾のギャラリーを知る：「釈宗演と近代日本」展
7月21日 慶應義塾大学(三田)

港区のギャラリーを知る：現代美術画廊の活動
2019年2月8日(金) 横田茂ギャラリー

3. 学校建築をめぐる

慶應義塾 三田キャンパス 建築プロムナード
10月17日(水)・20日(土) 慶應義塾大学(三田)

建築とアーカイヴをめぐるトーク
10月20日(土) 慶應義塾大学(三田)

プログラム内容は予告なく変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。



ARTEFACT 02

「ARTEFACT」は、都市のカルチュラル・ナラティブプロジェクトのプロジェクト・マガジンです。「学術研究」と「文化観光」の接続を目指して、イベントのレポート、地域の文化資源紹介、文化資源の現代的活用などに関する記事を掲載しています。「増上寺／都市のカルチュラル・ナラティブ」をテーマとしたARTEFACT 01は、アート・センターで頒布していますので、ご希望のかたはお問い合わせください。

東京2020 参画プログラム

都市のカルチュラル・ナラティブ
地域文化資源インターンシップ
—地域文化の現場を訪ねる講座

Cultural Internship in Minato City Visits to Urban Temples:

The History and Culture of Affiliated Temples of Zojoji

Historical visits to Shiba Zojo-ji Dai-mon Street and old Onarimichi Street

In this guided tour, Dr Michiko Isaka, the leading scholar in this field helps you find the cultural memory of Zojo-ji temple, which dates back to the Edo period. This is also an excellent and rare opportunity to visit the sanctuary of Joshoin (National Registered Cultural Properties) — a sparkling treasure box of history and culture.

Thursday 27 September 2018, 15:00-17:00

Max. 20 seats. Booking required.

Language: Japanese

Lecturer: Michiko Isaka (Architect, Co-representative director of Isaka design office), Kodo Nomura (Abbot of Joshoin)

Venues: Gates of Zojoji (Dai-mon, Sangedatsu-mon), Sanctuary of Joshoin, Main gate and wall of Koudoin.

Heritages of Myojoin Temple:

A Temple as a Narrator of Cultural Narrative of a City

Myojoin houses many treasures donated by Tokugawa family and people around them. It also preserves two precious storehouses from the Edo period.

In this lecture the abbot of Myojoin and Dr Isaka introduce the architecture and artworks of Myojoin and give talks on the activities to preserve and open cultural properties in the temple. The participants are guided to the main hall and the ancient storehouse (Jodo-zo: National Registered Cultural Properties), which are not open to the public usually.

Saturday 29 September 2018, 15:00-17:15

Max. 50 seats. Booking required.

Language: Japanese

Lecture: Michiko Isaka "Opening up the door of architecture in Edo period"

Shodo Kobayashi (Abbot of Myojoin) and Jundo Kobayashi (Deputy abbot of Myojoin) "Protecting and opening heritages: cultural properties of Myojoin"
Special Visits to Jodo-zo and the main hall of Myojoin.

文化
オリンピックアード

